

Message Board 特集「田沼武能名誉会長を偲んで」

◆浅井秀美（1993年入会）

昭和51年（1976）1月某日、日本中央競馬会内で仕事をしていると、田沼先生が競馬の撮影に来られた。帰り際、私の初個展、新宿ニコンサロンでの開催ハガキを「お時間がありましたら、よろしくお願ひ致します」と、お渡した。すると、後日スタッフ4～5人を伴って見に来てくれた。そして有りがたいアドバイスを頂き、「こんど事務所に遊びにきなさい」と、名刺を下さった。後日連絡しパレスサイドビルの事務所に伺うと、4～5人のスタッフと忙しそうに働いていて、何か圧倒され早々に失礼した。



長い間、お世話になり、ありがとうございました。（東京都港区在住）

◆荒谷良一（2000年入会）

昨年、年末のご挨拶に伺った時の写真です。楽しそうに写真について語つておられました。私が「写真を撮らせてくれ下さい」と言うと、カメラを持ってきて私に向きました。「それでは先生のお顔が撮れません」と言うと、カメラを外して笑顔を私に向けてくださいました。



先生は写真の道を情熱的に走り続けていました。私は先生に3年間師事することができたことの幸運を大切にしたいと思います。ありがとうございました。

（東京都品川区在住）

◆安藤 豊（1998年入会）

JPS創立60周年祝賀会で、受付を任せられた時のこと。実行委員10数名で設営も終え、開場30分前に田沼会長が訪れた。受付を見るなり「綺麗にできているが、



バランスが少し良くない感じだ」と一言。直ぐ会長と相談（写真）、直ぐに委員と協力して設営し直し、時間内に何とか間に合った。会長はご覧になり、満足げに頷いた。後日、田沼会長から「JPSじゃなければ、出来ないことをやるんだよ」この一言の重みを、今も噛締めている。（茨城県神栖市在住）

◆飯田照明（1997年入会）

JPSに入会させて頂いた1997年にランニング雑誌の企画で田沼武能さんを撮影したことを思い出します。当時パレスサイドビル内にあったサンテレフォトの事務所に伺った時に入口から写真や本、資料が山積みになっていたことに驚かされました。その奥に田沼さんがいらして早々にライターの質問にエピソードを交えて話されていましたが、私はJPS会長の撮影とあってかなり緊張していたと思います。皇居前でも撮りたいといつの間にか2台のカメラに望遠と標準ズームを付けて事務所を出ようとしていたので、何て身軽なんだろうと驚きました。写真を撮るには身軽でなければいけないということを示して頂いたのではないかと今でも思っています。合掌

（東京都北区在住）

◆池田正一（2012年入会）

読売新聞で2012年7月から8月に、田沼先生の写真創作活動を紹介する「時代の証言者」を執筆した。先生の信念は「写真は社会を記録し、時代を記憶する」。先生の自宅に8回も押しかけ、4時間以上もお話を伺った日もある。過去はもちろんのこと、プライベートな話もざっくばらんに伺った。



連載の副題は「人間を写す」。ファンで見てきた人間の営みと出会いを語ってもらつたからだ。先生の笑顔が忘れられない。合掌。

（東京都板橋区在住）

◆岩永 豊（2015年入会）

田沼先生と初めてお会いしたのは30年前、JPS展の表彰式後の祝賀会

の会場でした。一般公募で受賞し田舎から上京したのですが、私の隣の席が田沼先生で、この時初めてお話しをしましたが、優しく接してください、以来これまで親しくご指導をいただきました。『アサヒカメラ』誌に掲載する写真を撮るため有明海を案内したことでも楽しい思い出となっております。離れておりますので、時々は電話でお話をさせていただいて刺激を受けておりました。今年の2月初めには長時間電話でお話ししましたが、とてもお元気な様子で今回のご逝去に驚いています。先生は写真家の地位向上に熱心に取り組まれ、大きな功績を残されました。心よりご冥福をお祈りいたします。（佐賀県佐賀市在住）

◆大石芳野（1972年入会）

JPS田沼元会長を偲ぶ

元会長田沼武能さん、長年にわたってお世話になり、真にありがとうございました。会長を務めておられた間に写真界の地位を広い芸術界のなかで高めていただきました。「公益社団法人」の実現はその最たるものでしょうが写真の芸術的価値を社会に認知してもらう努力を、他の方々とも一緒になされたことは後輩として有難いことです。また、個人的には東京工芸大学芸術学部写真学科で田沼教授の後任として、フォトジャーナリズムを学生たちに教えつづ共に学ぶことができました。大切な機会を与えていただきました。ここ数年間は「コロナが静まつたら…会いましょう」という電話だけでお別れになってしまい実に悲しく思っています。ご冥福を心からお祈りいたします。（東京都武蔵野市在住）

◆大久保勝利（2001年入会）

田沼武能先生との出会いは「よみうり写真大賞」の審査員になられた30年前からの出会いです。

1980年、福井県小浜市西津に伝わる「化粧地蔵」を取材されて、2015年「35年ぶりに取材したい」とのことで、当日の午前中、京都で地蔵盆を撮影予定になつていて、午後からだつたら丁度良く、私の車で行くことになりました。

現地に到着するとすぐ取材体制に入り、浜辺で地蔵さんを洗っている子

もたちに声をかけ、近寄りながら撮影されていました。思ったような構図にならないのか、ズボンを捲りあげ子どもたちの目線まで下がったり、洗ったお地蔵さんを、灼熱の浜で干す子どもたちを寝ころんだりして、先生（85歳）は撮影されていました。砂利は火傷するような温度で危険だと思い、私は子どもたちにポーズを取るように言ったら、先生は子どもたちに「やりたいようにやっていいよ」と言って粘ること数分、無事に撮影を終了しました。

「子どもたちに注文を付けて撮ることはやめた方がよい、自然体が見る人には感動してもらえる」と先生の持論を話しながら夜8時まで撮影され、「今日中に東京に帰りたい」とことで新幹線米原駅からご帰宅。「お盆のさなか新幹線は混んでいて東京駅まで立ったまま帰ったよ」と翌朝連絡がありました。あの強靭ぶりに驚いたことが一番印象に残ります。

未だに、亡くなられたことが信じられません。本当に疲れました。

合掌 (滋賀県大津市在住)

◆奥田典充（1989年入会）

「田沼さんの思い出」

10数年前「僕はね、土門さんにも可愛がられていたんだよ…」と、お話を伺って以来ずっと「木村伊兵衛と土門拳」のタイトルで田沼さん独自の語り口で書物を出して頂けないかと思いつづけ手紙の下書きまでしておりました。何しろお忙しいお方なので毎々とタイミングを考えている内に悲しく寂しい事になり残念無念でなりません。

ちなみに、私は1979（昭和54）年1月に結婚、12月に体調不良で帰国、恩師石井彰から田沼さんが同年秋にご結婚された事を伺いました。

（奈良県奈良市在住）

◆織作峰子（2009年入会）

JPS入会のお話をいただいた時、師匠からの「組織に属するな」と言われていたことを話すと「関係ねえよ」と返され、会長推薦で会員となつた。会うと優しい口調で「JPSもよろしくね！」と仰られていた。

写真文化発展の為に人生を捧げられ「写真の日」に旅立たれるなんて流石です。心からご冥福をお祈りします。

（東京都港区在住）

◆上山益男（1982年入会）写真

1990年、第15回JPS新潟巡回展

が懐かしいです。イベントとして田沼武能・木村恵一・上山益男のトークショーでした。

1999年、私の主宰する写真クラブの創立写真集に田沼JPS会長から「良き指導者を得て、その成果を期待している」とお祝い文をいただき今年で23年継続中です。

2015年、『1996年－2015年、写

真人生50年 上山益男写真集』



には、「これから次なるステップに入り80

年に向けて挑戦してほしい。」と序文をいただきました。

2020年、田沼武能氏 文化勲章受章を祝う会においては奥さんと壇上に上がつてもカメラを放さない姿には心から「写真人生バンザイ」と言わせて下さい。

（新潟県新潟市在住）

◆岸野亮哉（2010年入会）

地蔵盆の撮影にお越しになつた

名誉会長

2014～2016年の8月、計3回、私が副会長を務める寺と近隣地域の地蔵盆を田沼会長（当時）が撮影なさつた。寺では1日に約200人の子どもが参加。境内や本堂は人で溢れ返る。私は法要や数珠回しを執り仕切つた。

名誉会長は雰囲気に溶け込みながら撮影なさつている。bingoゲームのときには隣の子どもからゲームのカードを渡してもらつていた。

2017年春、私は脳出血を発症。秋に退院したが、高次脳機能障害や視野欠損の後遺症が残つた。「社会復帰は無理かも」と覚悟したとき、写真集『地蔵さまと私』が届いた。



田沼名誉会長が撮影なさつた全国の地蔵盆のようすが納められており、私の姿もある。拝読し前向きになれ、翌年の地蔵盆は復帰できた。

（京都府京都市在住）

◆木下 健（1985年入会）

NGO活動を支援してくれた

田沼武能さん

1979年に、私は、友達の子どもた

ちをつれて、田沼武能さんとの写真展を見に行きました。それ



が、田沼さんとの最初の出会いでした。それから6年後の私はJPS入会の時の推薦人に田沼さんになってもらいました。そして私は、田沼さんの、世界の子どもの写真の影響もあり、アジアの子ども達の識字教育を支援するNGOを続けてきました。田沼さんは、それを理解し、支援もしてくれました。そのNGO活動を2回も、JPSの会報で紹介してもらったのは、田沼さんが、私を推薦してくれたからです。ご冥福をお祈りいたします。

（東京都八王子市在住）

◆後藤 剛（2016年入会）

初めてお見かけしたのはJPSの企画展（1995）。誰に対しても物腰柔らかでした。入会後、関西地区委員時代には度々お

目にかかり、我々との歓談が深夜に及ぶことも。それ



は普段、接する機会の少ない地方会員への思いやりだったと信じています。

米寿、文化勲章の両祝賀会の写真をお送りすると、頂いた礼状には「記録になります」。今となってみると、日本写真保存センターの設立に尽力された田沼先生からの遺言のようにも思えます。

（兵庫県西宮市在住）

◆小松健一（1985年入会）

本土復帰50年を迎えた沖縄から三週間ぶりに帰宅すると田沼武能さんから一通の葉書が届いていた。いつもの少し丸みをおびた田沼さんの文字である。旅立つときに発行前の拙書『琉球OKINAWA』の見本を送つておいたが、そのお礼と感想が記されていた。

「写真集の出版おめでとうございます。たゆまぬ努力感心いたします。OKINAWAは数々の日本の問題を圧縮し存在する島、五十年の歴史が詰まった写真集、すごい。静かに見える島民たちの心の中の怒りが写しこまれており、小松さんの芯の強さが感じられます…」と綴られてあつた。



Message Board 特集「田沼武能名誉会長を偲んで」



復帰 50 年たっても何ら変わっていない沖縄の現状と島人の心情を鋭く捉えていることに驚いた。そしてうれしかった。近く電話でこの気持ちを伝えようと思っていた矢先の 6 月 1 日。あまりにも不意に逝ってしまった。僕が師からの葉書を受けてからわずか一週間後の事であった。

梅雨満月金網の島ひかり始む 風写合掌 (埼玉県朝霞市在住)

◆小宮広嗣 (2015 年入会)

田沼先生に初めてお会いしたのは 18 歳のころで既に 30 年近くが経とうとしている。これまで度々会う機会に恵まれ、会う度に気にかけてもらいたい況を話すことが楽しみであった。その関係は大学 4 年時、田沼先生のゼミ生であったことに由来している。

当時、私を含めたゼミ生は作品提出期限に間に合わせず、勝手に教授室に泊まり込み、新聞を広げプリント乾燥をしたり飲み食いまでしていた。今考えると、若気の至りだったとしても少々やり過ぎだったかもしれない。もちろん、すぐバレて怒られた。

写真を見る目は厳しかった。写真家としてのあり方、写真の選びかたなど今なお金言として自分の写真人生で生きた言葉となっている。べらんめえ口調でよく言っていた「チョロスナ撮つてくるんじゃねー」(ちょっと行って撮ったスナップ写真の意) その言葉を撮影現場で思い出す。先生、小宮はおかげさまで「チョロスナ」撮らなくなっていました。 (東京都墨田区在住)

◆酒井憲太郎 (2004 年入会)

田沼武能氏を偲ぶ

6 月 1 日、田沼武能全日本写真連盟会長が亡くなった。田沼氏が会長に就任する時に、全日本写真連盟事務局長だった酒井の思い出話。

2000 年 12 月 18 日、東京都中央区築地の朝日新聞東京本社で、朝日新聞社長から田沼武能氏 (71) に会長委嘱状が手渡された。と、『フォトアサヒ』2001 年 3 月号に報告している。

当日は、14 時に 15 階 A 会議室で嘱状が授与された。15 階は役員専用の階でそれなりの敬意を払ったことになる。同席したのは、福永友保映像センター所長、星野忠彦編集担当付で後

藤正次長が写真撮影を担当した。授与後、会長は 5 階の旧写真部、映像センターを見学した。

2001 年 5 月 23 日午後 2 時、朝日新聞東京本社新館 15 階レセプションルームで全日本写真連盟 2001 年度理事会が開かれた。

田沼会長は「全日本写真連盟の 75 年の長い歴史の中で、朝日新聞以外からの会長ははじめてらしいです。21 世紀は変化の時代です。新聞社の写真部から暗室もなくなり、名称も映像センターとなりました。21 世紀は飛躍する世紀として、心機一転していきましょう」と述べ、20 年以上続く田沼会長時代をスタートした。この時、会員は 18,969 名だった。

(東京都豊島区在住)

◆四方伸季 (2018 年入会)

初めて田沼先生とお会いした時は某フォトコンテストの入賞式典だった。その時先生は咽を悪くしたので大きな声が出来ないと事で、何と首からラジカセを紐でぶら下げて拡声器代わりにしてお話しされていたのが印象的だった。その後も仕事やコンテスト、JPS の関係などで公私でご指導頂いたが、いつもお元気で若輩者の私たちより精力的に活動されていた。



ご自宅の階段で転倒された時、手にしていた発売前の N 社新製品を守るために名譽の負傷をされた時も、入院先の病院で美女と執筆資料に囲まれて笑顔だった。カメラを向けたら「こら！撮ったのならどこかで使えよ！」と笑いながら言われた。ご冥福御お祈り申し上げます。

(京都府京都市在住)

◆庄司博彦 (2008 年入会)

田沼先生に感謝

ふらりと会場を訪れた人がいた。2002 年 2 月 19 日の話だ。「写真から中国の子どもの笑顔が聞こえてくるようだね」と言って名簿に住所、氏名、電話番号を書いて立ち去った。

すると、会場内がざわついた。「JPS

田沼」でなく自宅まで書いてあるよ…の声に有名な田沼会長だと気づいた。

翌日、

大勢の人

を連れ

再び富士

フォトサ



ロンに来館。「生徒さんと中国の撮影に行く」とのこと。その日からお近づきになり、その後 JPS に入会。お世話になりました。

(静岡県富士市在住)

◆竹田武史 (2010 年入会)

7 月 11 日に私が企画監修をした 85 ページに及ぶ雑誌のグラビア特集「日本人写真家の見た中国」が刊行された。

田沼さんは「シルクロードの子どもたち」というタイトルで、愛情溢れる写真とエッセイをご寄稿くださいました。2 月頃から何度もご自宅に伺い、写真をお借りしたり、インタビューをさせて頂いた。入稿作業中の突然の訃報に驚かされましたが、最後までいきいきとお仕事をされていたことを皆様にご報告しておきたいと思った。尊敬する大先輩と最後の最後まで一緒にお仕事が来たこと、貴重なお話をたくさん伺うことができたことは、とても幸運なことだった。亡くなる 1 週間前、原稿を確認するお電話で「良く出来ました！」と言ってくださったのが最後となつた。

(東京都板橋区在住)

◆谷沢重城 (2009 年入会)

2019 年 9 月 20 日からオリンパスギャラリー大阪で開催された田沼武能写真展「子供と地蔵さま」の前夜にお会いすることができました。

読売新聞大阪本社写真部在籍時に、写真大賞の審査委員長を長く務められ、随分とお世話になり審査の眼力はもちろんですが、当時から写真の保存の重要性を説かれていたのが印象的でした。本当に少しの間のお付き合いでしたが気がさくに接して頂き只々感謝しかり



ません。

写真は 2019 年 9 月 19 日 オリンパスギャラリー大阪で、合掌
(奈良県奈良市在住)

◆土田ヒロミ (1972 年入会)

田沼先生を偲ぶ

永く現役を続けることの喜びと苦しさを教えていただきました。

そして、先生は、いつの間にか私の親父(おやじ)さんになっていた。

私とそんなに年齢も離れていないのに、不思議な感情が生まれています。ありがとうございました。

(東京都品川区在住)

きも、いつの間にか一番前、小さなカメラでスナップさせていただきました。心からご冥福をお祈りいたします。

(神奈川県横浜市在住)

◆土屋勝義 (2014 年入会)

写真昭和の代表的な写真家！

いや日本の写真家の礎を作った人だ！

当日浅草で待ち合わせると！いなせな着流し姿。「土屋君に撮ってもらうんで、気張るよ～！」田沼さんは、海外から帰国したばかり！私の撮影に付き合ってくれたもう存在だけで、写真家！「もっとこうしましょう～」「あ～しましょう～」と言う私に、何を言う若造がと言う事無く！撮影に全面的に応じてくれた。

写真家の何たるもの言葉で無くご本人の姿勢・存在で教えてくれた！

撮影

後、浅草名物の天丼を食べたりと食べた。80代なのに凄い体力！その写真界の存在の大きさは、知っていたが、ファインダー越しの田沼さんは、「これが、写真家だよ！」と私に言つてた様だった。

私も色々な人を撮ったが、田沼武能氏と言う写真家を撮影して、「写真家人生の何ぞや！」田沼さんの存在自体を感じた。JPS 会長として長く写真界を支えてくれた実績。その事実は、今の日本の写真家達の全員にそれを教えてくれた人なのだろう。

(東京都中央区在住)

◆広田尚敬 (1967 年入会)

集まるときはいつも片隅にいる私ですが、田沼先生のときは、手招きされたわけでもないのに、引き付けられるように、ごく自然にお近くに寄っていたようです。

『武蔵野』写真展のパーティーとの



(神奈川県横浜市在住)

◆三好和義 (2004 年入会)

田沼先生の思い出

田沼先生と最初にご一緒したのはエプソンフォトグラフィーの審査の場でした。以降 10 年以上にわたりお付き合いいたしました。それから数年後には別の審査の仕事も振っていました。ただくようになり、頻繁にお会いする機会がありました。



写真界のレジェンド。先生とお話しするのは戦後写真史の授業を受けていたり、木村伊兵衛が生きている、そんな感覚になる貴重な時間。僕にとっては永遠の時間になりました。

(東京都江東区在住)

◆八木祥光 (会友)

ありし日の田沼夫婦

写真は 2019 年 7 月 4 日、四ッ谷のポートレートギャラリーで開催の八木祥光「時のレリーフ」写真展オープニング会場にて、田沼さんのファンの女性と談笑される



田沼夫婦を撮影したものです。

(愛知県豊橋市在住)

◆渡部晋也 (2006 年入会)

田沼武能さんとの想い出

事務局でお目にかかるご挨拶すると、気さくに応えてくださる田沼さん。実はずいぶん昔に私の叔父を撮つていただいたことがあります。

正しくは作家の石川淳氏を今や伝説となった日本橋の寿司店「すし春」で撮影した写真に写り込んでいるのですが、寿司職人だった叔父は、寿司界の天皇と謳われた藤本繁蔵の弟

子だったので、その関係で「すし春」のツケ場に立っていたのです。

雑誌『オブラー』に掲載されたこの写真を見た私は、JPS の事務局で田沼さんにこの写真をプリントしていただけないかとお願いしました。すると撮影したときのことも憶えていらっしゃり「そのうち探してやるよ」と気さくにお返事頂きました。

よく考えればとんでもないお願いですが、嫌な顔ひとつされず、さらにいろいろな現場での撮影秘話を聞かせてくださいました。本当にありがとうございました。

(千葉県習志野市在住)

(ご投稿いただいた原稿は、原文のまま 50 音順に掲載しました。出版広報委員会)



「田沼先生おつかれさま、そしてありがとうございました」

6 月 1 日、田沼武能名誉会長は長い現役生活に幕を下ろされました。

我々写真家の撮影後の挨拶「おつかれさまでした。」でお別れしたいと思います。田沼さんは、単に写真の表現面ではなく、写真家としての矜持をご自分の生き方で示してくれた先生です。

会長をお辞めになった後、出版広報委員会の担当理事に就任された時期がありました。田沼さんが担当理事になる、とのことで委員は緊張しましたが、当時の小池編集長と委員達を信頼し、温かく見守っていただき、思い通りの編集作業ができました。

写真は 2019 年の秋、文化勲章を受勲された時の出版広報委員との記念撮影です。田沼さんは、何とあんパンをもっているのです。田沼さんらしい微笑ましいお姿です。

おつかれさまでした。そしてありがとうございました。

出版広報委員会担当理事・伏見行介